0.1mol／Ｌ硝酸銀溶液～0.1mol／Ｌマグネシウムエチレンジアミン四酢酸二ナトリウム溶液　（略）

0.05mol／Ｌヨウ素溶液

1,000mL中ヨウ素（I_2：253.80）12.69ｇを含む。

調製　（略）

標定　次のいずれかの方法によりモル濃度係数を計算する。

①　三酸化ヒ素（標準試薬）を粉末とし、105℃で３～４時間乾燥した後、デシケーター（シリカゲル）で放冷し、その約0.15ｇを0.001ｇの桁まで量り、その数値を記録し、水酸化ナトリウム溶液（１→25）20mLを加え、必要ならば、加温して溶かす。水40mL及びメチルオレンジ試液２滴を加え、溶液が淡赤色になるまで希塩酸を加えた後、炭酸水素ナトリウム２ｇ（1.5～2.4ｇ）、水50mL及びデンプン試液３mLを加え、調製したヨウ素溶液を徐々に滴加し、溶液が持続して青色を呈するまで滴定し、モル濃度係数を計算する。

0.05mol／Ｌヨウ素溶液１mL＝4.946mgAs_2O_3

②　調製したヨウ素溶液15mLを正確に量り、0.1mol／Ｌチオ硫酸ナトリウム溶液で滴定し、モル濃度係数を計算する（指示薬　デンプン試液又は電位差滴定法）。指示薬を用いる場合において、滴定の終点は、溶液が終点近くで淡黄色になったとき、デンプン試液３mLを加え、生じた青色が脱色するときとする。電位差滴定法の場合において、電極としては白金電極を用いる。

注意（略）

0.05mol／Ｌヨウ素酸カリウム溶液～0.01mol／Ｌ硫酸第二セリウムアンモニウム溶液　（略）

⑷～⑼　（略）

８　各飼料添加物の成分規格及び製造の方法等の基準

⑴～⑰　（略）

⑱　Ｌ―アスコルビン酸

ア　製造用原体

㋐　成分規格

含量～強熱残分　（略）

定量法　本品をデシケーター（シリカゲル）で24時間乾燥し、その約0.2ｇを0.001ｇの桁まで量り、その数値を記録し、メタリン酸溶液（１→50）50mLを加えて溶かし、0.05mol／Ｌヨウ素溶液で滴定する（指示薬　デンプン試液１mL）。

0.05mol／Ｌヨウ素溶液１mL＝8.806mg$C_6H_8O_6$

㋑　（略）

イ・ウ　（略）

0.1mol／Ｌ硝酸銀溶液～0.1mol／Ｌマグネシウムエチレンジアミン四酢酸二ナトリウム溶液　（略）

0.1mol／Ｌヨウ素溶液

1,000mL中ヨウ素（I：126.90）12.69ｇを含む。

調製　（略）

標定　三酸化ヒ素（標準試薬）を粉末とし、105℃で３～４時間乾燥した後、デシケーター（シリカゲル）で放冷し、その約0.15ｇを0.001ｇの桁まで量り、その数値を記録し、水酸化ナトリウム溶液（１→25）20mLを加え、必要ならば、加温して溶かす。水40mL及びメチルオレンジ試液２滴を加え、溶液が淡赤色になるまで希塩酸を加えた後、炭酸水素ナトリウム２ｇ（1.5～2.4ｇ）、水50mL及びデンプン試液３mLを加え、調製したヨウ素溶液を徐々に滴加し、溶液が持続して青色を呈するまで滴定し、モル濃度係数を計算する。

0.1mol／Ｌヨウ素溶液１mL＝4.946mgAs_2O_3

（新設）

（新設）

注意（略）

0.05mol／Ｌヨウ素酸カリウム溶液～0.01mol／Ｌ硫酸第二セリウムアンモニウム溶液　（略）

⑷～⑼　（略）

８　各飼料添加物の成分規格及び製造の方法等の基準

⑴～⑰　（略）

⑱　Ｌ―アスコルビン酸

ア　製造用原体

㋐　成分規格

含量～強熱残分　（略）

定量法　本品をデシケーター（シリカゲル）で24時間乾燥し、その約0.2ｇを0.001ｇの桁まで量り、その数値を記録し、メタリン酸溶液（１→50）50mLを加えて溶かし、0.1mol／Ｌヨウ素溶液で滴定する（指示薬　デンプン試液１mL）。

0.1mol／Ｌヨウ素溶液１mL＝8.806mg$C_6H_8O_6$

㋑　（略）

イ・ウ　（略）